



第4号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ

電話 06-6429-9908



明石海峡大橋 ブリッジワールドへ行ってきました

平成23年7月30日(土) 国際文化学科1～3年を中心に他学科の方も
含め総勢23名で見学、体験をしました。

最初にツアー概要の説明を受けヘルメットをかぶり重装備で見学に向
かいました。

世界一の吊り橋 海面上 50mの大橋を約1kmスリル満点の空中散歩
です。

次はエレベーターに乗って塔頂へ・・・約300m上空からの眺めは素
晴らしいものでした。神戸の町並みや、神戸空港も見えました。
まわりに壁があり思ったより怖くありませんでした。

見学終了後は「ブリッジワールド認定書」と記念写真、お土産をいただ
き楽しくもあり、ちょっと怖い思いもして帰りました。

文 国際文化学科2年 齋藤 秋 生

写真 国際文化学科2年 中村 米三郎

特別掲載

シニア層向け大学開放に関する一考察

大阪教育大学教授 堀 薫夫

「けやき便り」編集クラブメンバーがWebページを検索中、「園田学園女子大学シニア専修コース」を紹介されている大阪教育大学教授（生涯教育計画論）堀先生の論文「シニア層向け大学開放に関する一考察」をみつけ、シニア専修コースに在学する我々としては一読する必要があると思い、総合生涯学習センターを通して、「けやき便り」への掲載を依頼したところ、堀教授から承諾の回答をえました。

また、10月31日に、堀教授が総合生涯学習センターにお越しになった時、論文の掲載に関して、改めて好意的な回答を頂きましたので、「けやき便り」に特別に掲載させて頂きました。

論文は、全文を末尾に特別に掲載させて頂いていますので、是非、一読されることを期待します。

「けやき便り」編集クラブ

総合生涯学習センター

所長 松成 雄三

堀 薫夫 先生へのお礼のことば

この度、大阪教育大学 堀薫夫先生のご好意により、別冊小冊子「シニア層向け大学開放に関する一考察」の転載をお許しいただきましたこと、さらにはそのデータをご提供いただき制作が手早くできるようご配慮をいただき厚く御礼を申し上げる次第です。

堀先生とは、本学の「シニア専修コース」のことに関心をお持ちいただき、ご説明を申し上げる機会を得ました。先生の論文が大阪教育大学の紀要として記載され、これをインターネットで国際文化学科の中村米三郎さんが発見。今回の配布につながったわけです。中村さんの研究熱心にも敬意を表したいと思います。

堀先生によりますと、来年春には生涯学習に関する新たな著書を上梓のご予定であり、そこにもこのシニア専修コースをとりあげるとのことで楽しみです。

ついでながら、平成14年のスタート以来新聞等に採り上げられたことはこれまでもありましたが、出版物で取り上げられたものを以下にご紹介いたします。

- 「高等教育機関が設置する生涯学習系センターの役割と機能に関する調査研究」
文部科学省平成21年度委託調査/平成22年3月(株)リベルタス・コンサルティング
- 「公開講座の実施が大学経営に及ぼす効果に関する調査研究」
文部科学省平成22年度委託調査/平成23年3月(株)リベルタス・コンサルティング
- 「第二ステージの大学公開講座」瀬沼克彰 桜美林大学名誉教授 学文社

河合教授ご担当【国際文化演習】

オールドガール・スチューデントズのフィジー紀行

その1

国際文化学科 2年
新川 緑

シニア専修コース・国際文化演習の科目をこの春から興味津々と受講しています。初夏に行われた鶴橋コリアタウンへの一泊フィールドワークを経て、いよいよ夏休み以降は各々自分の興味がある分野へ自主的に資料収集や体験に取り組むことになりました。同じ国際文化演習仲間の平嶋さんと「フィジー」について学んでみようという意見が一致。二人で9月1日にフィジーへと出発しました。最初は二人だけですが、途中からは1ヶ月ほど前からフィジーに調査に出かけていらっしゃる河合先生を訪ねて合流させていただくという素敵な学びの旅を計画しました。



バス停にて

9月2日、ナンディ空港に到着。フィジーの公用語は英語です。私達は英語が苦手。単語くらいなら少しはOKの2人連れです。でも「何でも体験」と思い、みんなが利用するバスに乗り込んで、クイーンズロードをスヴァエに向かって3時間半ほど揺られることに。乗った瞬間「田舎のバスはおんぼろ車・・・」という歌のフレーズが頭の中に浮かび、やけに嬉しくなりました。バスはぼこん、ぼこんとよく飛び跳ねる、バナナの皮ですべる、その度に「キャー、キャー」笑い転げる乗客たち。全開の窓からは、緑

の木々とオレンジ色の花、野原、てっぺんが赤茶色の土になっている低い丘、まばらに点在する牛たち、そして裸馬に乗る子供たちなど、さまざまな景色が見えます。

フィジーの人たちはとても話好きだと思います。バスの中でもバス停でも、タクシーでも警備員室でもどこでも。これは後で河合先生にお聞きして知ったのですが、年齢や家族の話をするのがフィジーの人たちは大好きなのだそうです。本当によく聞かれました。そしてその度に相手の方の家族の様子も知ることができるのです。バス停で会った青年のいとはラグビーの選手で日本へ行ったことがあるとか。若い女性は今オーストラリアに住んでいるとか。警備室にいた青年はイギリスの軍隊に入って9年間、イラクとアフガニスタンで車を運転していたとか。「へえっ」と目を丸くしながら、私たちはつたない英語で返事をしたものです。

いよいよ9月4日河合先生と合流して、スバ郊外の海沿いの村へフィールドワークのため向かうことになりました。村は首都スヴァエから車で30分ほどなのですが、最後は山道を登っていく自然豊かな場所です。私たちは河合先生と長い交友のあるワインガナケ地区（人口約1300人）の牧師さん宅に3泊のホームステイをさせていただくことになりました。



ごちそう

た。恰幅のいい堂々とした牧師さんと学校教師のすごく優しく温和な奥さん、15歳と4歳の女の子の4人家族です。フィジーの村では他所から来た人は、村のチーフの許可を得てからでなくては入れません。私たちも、村に着いた夜に許可を得るための儀式をしていただくことに。あのカヴァという飲み物を飲む儀式です。少々の緊張と多大の好奇心を持ちながら時間を待ちました。雨が降って、あたりが真っ暗になった頃、儀式で渡すヤングナの根っこを手に、河合先生と3人で集会所兼教会へ出かけました。行ってびっくり、沢山の人です。30人以上はいましょうか。肌の黒い体格のよい20人くらいの男性が壁際と真ん中にずらりと並び、入り口のほうと横の別室にも女性が、10人ほど座っています。私たちはゲストなので上座のほうへ座り、中央にいた若い男性数人がカヴァを作り始めました。地区の最長老がまず飲んでから、次々と村の他の長老たちに回り、ゲストの番になりました。一度手を打ち、「ブラ」と言い、右手で杯を持って飲み干し、杯を返す。二度あるいは三度手をたたき、「ビナカ（ありがとう、素晴らしい）」と言う。少しピリッとした味わいですが、あまり抵抗感もなく飲めて、ほっとしました。これで村に入ることが出来ます。二杯目を飲んだ後にみなさんと挨拶の握手をして回りました。みんな身体が大きくてごつごつしていたけれど、暖かい手でした。



カヴァの儀式

この後に女性たちで歓迎の集まりをしてくれるということで、別の場所へ移動。電燈が一つだ

けの薄暗い部屋の中、15人ほどの女性と数名の男性が、再びカヴァを作って、もてなしてくれました。河合先生が「学校の学生です」と私たちを紹介してくれ、平嶋さんが「オールドガール・スチューデントです」と言う大きな笑い声。その後に「年は?」「結婚は?」「家族は?」と、どんどんとおばさんトークが行き交うことになり、私たちも苦笑い。フィジーの平均寿命が63歳と聞いていたので、還暦過ぎの私たちにとって本当の年は言いつらく、大幅に年を誤魔化すことに（フィジーの方々スマセンデシタ!）。後日、日本へ帰る飛行機の中で、私たちはフィジーで私たちより年上の人会遇到ないんじゃないかしらと話しました。それほど若い人が多かったのです。

滞在させてもらったワインガナケ村は250人。ワインガナケ村から分かれた隣村ナマカ



村の海

ラは135人の村民がいます。村から下りてすぐ目の前は海。岩礁にぶつかる白い波が遥か遠くに見えます。そこまで浅瀬がずうっと続いて、魚やたこを採ったり貝拾い等の漁業をし、少し山のほうに入ると畑を作り農業も行っています。首都スヴァから近いこともあり、スヴァへ通勤している人たちもいます。窓や入り口を開け放ったトタン屋根の小さな家々から“Bula!”と声をかけてくれる大人や沢山の子供たちの笑顔を見ながら、隣村の集会所に寄って見ました。女性たちがバンダナスという木の葉を使って大きなマットを編

んでいました。マットを編むのは女性の大切な仕事、葬式や結婚式の時には、自分で編んだマットを持って行くそうです。フィジーの都市部では上下水道が完備しているそうですが、この村ではまだで、水が不足しているので、雨水を貯めて使っています。だから水は貴重品。村では川を一部せき止め、男女とも一緒に、みんなで水浴と洗濯に使っています。服を着たまま川に飛び込み、頭をごしごし、楽しそうな子供たちを見かけました。少し年長の男の子たちは、広場でラグビーのボールを手にとり走り回っています。どの子も裸足で、速いこと速いこと。みんな運動神経抜群です。

村から車で5分ほどの所にあるフィジー系の小学校と10分ほどのインド系の小学校を訪問させていただきました。両方とも英語で授業をしています。教室から飛び出してくるどの子もどの子も、大きな目を輝かせてニコニコ笑いかけてきます。ネイティブのフィジーの子もインド



学 校



フィジー系小学校

系の子も、本当に可愛いです。カメラで撮られるのが好きらしく、何とかカメラの前に立ってポーズをとろうとして大騒ぎでした。先生方もおおらかで母親のような雰囲気です。この沢山の子供たちから伝わってくる生命力。人間ってこんなに強い力があるんだと、日本では久しく感じなかった感動を覚えました。

私たちはホームステイの後、スヴァヤナンディ、ラウトカなどの町でも色々な体験をすることができました。でもやはり一番心に残ったのは、村での生活と人々の明るい笑顔です。村の人たちに会えたことが、何よりも楽しく素晴らしい体験となりました。

その2

国際文化学科 2年
平嶋 貞子

旅に出ると、人は誰も芸術家になり詩人になるといわれる。

日常生活の惰性から自己を解き放ち、たとえどんな小さなことにせよ、日々、発見や創造の喜びを持って生きて行きたい。好奇心で目の前がぱっと開け気分が晴れ晴れとする、そんな旅をしてみたいものだと思っていた。

ところが、今回、フィールドワークという目的でフィジーの旅をする機会があった。文化人類学で学んだ知識をもとに、何をどう発見し調べていくのか。戸惑いながらも河合先生のご指導のもと、思いもよらない体験することとなった。日常生活から離れてフィジーで日本の日常生活を考えさせられる旅となった。

フィジーの朝も、小鳥の鳴き声から始まる。「チークエイ、チークエイ、チークエイ。オーギョウサッサ、チークエイ。チョンコーレン、チョンコーレン、トイトイトイ、チョンコーレン、ピッピッレア。」なんと楽しいことでしょう。日本の朝の「カア、カア、カア、アッホー、アッホー」とは随分違っている。私の好奇心は目覚めてしまった。

電気も水も充分ではない村であった。それに少しも不自由を感じていないように見える

人々の暮らし。暗闇の中でボンヤリともる蛍光灯。雨水を溜めた水桶にプラスチックの容器が浮かんでいる。それで口も濯ぎ、顔も洗う。チョロチョロのシャワー。ドラム缶のようなものに雨水が溜まれば、お風呂に変身。一人の little girl が服を着たままドボーン。実に楽しそうである。ここでの主食はタロイモ、ヤムイモ、タピオカ。果物は、村のいたる所に年中生えているマンゴ、パパイヤ、バナナと豊富。食事ごとにたくさん食した。いたってシンプルな食生活だが、皆さんの体格は立派。しかも姿勢が良い。

スバの街では、古いタイヤを潰して作ったようなゴムゾウリを履いた男性が、質素な布をスカートみたいに巻いて歩いていた。このフィジースタイルは、羨ましいくらいに似合っていて素敵だ。それにフィジーで一番素晴らしいものは、なんといっても、人を隔てないおもてなしの心だ。

入村する前に山道を通ると、遠くから「ブラ、ブラ」（こんにちは）と誰もが声をかけてくる。ロープに吊るした洗濯物、トタン屋根のお家、植物も人も、のびのび育って大らかだ。



洗濯物



村の子供たち



たろ芋、ヤシ、ヤングナ

フィジーで強く印象を受けたのは、彼らの死生観である。フィジーの人々の寿命は短くて、平均60歳代そこそこで、ある日コトツと逝くそうである。人間も自然の一部であるとするならば、短くとも、あっけなく死んで自然に同化することも良い気がした。

青少年行動で興味深かったのは、ガウリ（女になりたい男の子）と、トンボイ（男になりたい女の子）が1割～2割いて、重症の者もいると聞いたことである。南太平洋では問題となっていて、個人的趣味というよりは集団で生じる現象と聞き、不思議な気がした。「ゴネ（子供）は神の子で神に近い存在」といわれる。天に近い子供と考えられているフィジーに、いったい何が起きているのであろうか？

フィジーでも昔、部族が争っていた時代、食人の習慣があったという。「人間を含めて生命体の本質は多くの場合、他者を殺して食べる」と、何かの本に記してあった。

しかし、実際、生霊がさ迷っているような古い建物を訪問した。そこには、木で作った大きなナイフとフォークが置かれていた。私たちも多くの生き物を殺して食べて生きていることを、改めて考えさせられた。

フィジーの風は、私に多くのことを語りかけ、教えてくれた。フィジー旅行を終える最後の夜、ホテルのプールサイドで聞いた甘くささやくような男性ハーモニーが、いつまでも心に残っている。まだまだ知りたいことが沢山ある島フィジー、さよならフィジー！

最後に、右も左も分からない「オールドガールズ、スチューデント」を導き、ご指導いただいた、園田学園女子大学の河合利光教授に心から御礼申し上げます。 終わり

園田学園女子大学教授 河合 利光



思春期の子供たち（ワイカナケ小学校）



首都スバのお墓



ブレ（神殿）…祖先を祭る場所

今年のフィジーの8月は涼しい日が続き、雨が多くて海の波も高かったのですが、初めてではありましたが、首都のスヴァ市の一画にあり、キリスト教の牧師として赴任している先住フィジー人のご夫婦の住む地区に滞在し、離島へ行く機会を待つことにしました（結局、大部分をこの地区で過ごすことになりましたが）。例年の調査なら、そろそろ帰り仕度を始める頃、それを知った国際文化演習を受講中の新川さんと平嶋さんが訪問してくれました。

フィールドワークは、水槽の中の金魚を観察するように冷めた目で観察する作業とは違います。基本的には、人と人との交流のなかで彼らの考え方や生き方を学び、データ化する作業です。実は、牧師さん夫妻は、最初は広い屋敷の上手にある婦人会の会議用の別棟に二人に泊ってもらったつもりでいました（外部からのゲストには大抵そうしますし、実際、滞在中に日本の大学から来た短期の調査グループの一部の人は、そこに泊りました）。ところが、夫妻は、二人に出会ってから、自分たちの住む大きな母屋の一室に泊れるよう、急に予定を変更したのです。新川さんと平嶋さんが現地の人びとの信頼を得た結果でしょう。

たった3泊でしたが、単なるホームステイではなく海外で現地に泊ってフィールドワークを実行したシニアは、全国的にも珍しいと思います。ここに掲載されたエッセイを読めば分かるように、お二人は現地での体験を自身のものとしています。学術的とまではいかなくても、その本質は会得できたと言えるでしょう。人生を真剣に生きてきて、あらためて新しい未知の人びとの人生と暮らしにふれてみる。これもシニアにふさわしい一つの生き方でしょう。かつて『知的生活の方法』という本がベストセラーになったことがありました。この「知的生活」は書斎中心でしたが、

家を離れ、旅を通して人とふれ、帰国して世界の情報を語り合う仲間を身近に持って暮らすこと。これも、シニアにとってひとつの「知的生活の方法」だと思います。新川さんと平嶋さんは、それを見事に示してくれました。

「新川さん、平嶋さん、“vinaka vakalevu!” (どうもありがとう)。“moce”(さようなら)」。フィジーの皆さんの声が、今でも聞こえてきそうです。

【本学所蔵資料紹介】

「ティキちゃん」

園田学園女子大学教授 河合 利光

本学の30周年記念館の2階には、ヤップのカヌーや、かつて私が、一谷定之恵前理事長の率いるオセアニア交流協会の調査団に同行してオセアニア諸国を回ったとき収集した、民芸品などが展示してあります。国際交流は、身近にある異文化への親しみと関心から始まります。

その一つ、ニュージーランドの先住民であるマオリ人の「ティキちゃん」を紹介しますので、記念館2階へ行って、異文化を直接「体験」してみてください。

ティキ(tiki)には、いろいろな種類がありますが、このティキは、特に、ヘイ・ティキと呼ばれています。ニュージーランドへ行ったとき、お土産に首飾り用のグリーン・ストーン製のものを買ったことはありませんか。なぜ首を横にかしげているのでしょうか。胎児の形を表した安産の守護神であるとか、この形の方が彫りやすかったのだとかいわれますが、その説を否定する人もいます。でも、ティキがマオリの伝統的な神であったことは確かです。持っているとき幸せが訪れそうな感じはしますね。



(園田学園女子大学・同短期大学部メールマガジン2007年5月1日より転載)

岩崎教授ご担当「漢詩漢文の世界」

晴 耕 雨 読…「銷夏詩」を訳す

研究生 吉田 康夫

けやき便りの読者の多くが現役の社会人であった頃には厳しい社会環境のなかに身を於いて職務を全うするために必死に頑張ってこられたことだろうと思います。

そんな時代の苦しいとき、悲しいときに、その人様々に、程度の差はあるだろうけれども、早い時機に、晴耕雨読、悠々自適の生活ができればと夢憧れていた方も多かったでしょう。私もその一人ですが、実際に現役引退後は“ほっと”して自由で至福の時間を与えられると、これからの目標を何にするのかと考えさせられて、思案の末、カルチャー習得活動に新しい生きがいをもとめた結果、現在の姿である方々が多いのではないかと思います。

園田学園シニア専修コースでは各自でのカリキュラムの選択によって受講が進んでいますが私は、今年前期に本学教授の岩崎日出男先生の「漢詩漢文の世界」を選択して漢詩を学びました。その講義の中で先生から、文頭で書いた境地と共通するであろうと思われる漢詩を教えて戴きましたので紹介させて戴きます。時代や世相の違う背景ではありますが、作者の気持ちが享受できて、実感できる詩だと感じています。

尚、意識の枠内文は私の思いによる解釈ですのでご了解ください。

	第	平	水	不	
詩	一	生	雲	着	銷
型	驕	自	深	衣	夏
	人	想	処	冠	詩
七	六	無	抱	近	
言	月	官	花	半	袁
絶	・天	楽	・眠	・年	杯
句					

読み方

銷 夏 詩
しょうかのし

< 袁 杯 >
えん ばい

- ① 不 着 衣 冠 近 半 年
いかんをつけざること はんとしにちかし
- ② 水 雲 深 処 抱 花 眠
すいうんふかきところ はなをいだいてねむる
- ③ 平 生 自 想 無 官 楽
へいぜいおのずからおもう むかんのたのしみ
- ④ 第 一 驕 人 六 月 天
だいいちひとにおごる ろくがつのてん

語 訳

- ・銷 夏 …夏の暑さ凌ぐ意。ここでは、役人生活の煩わしさを炎暑にたとえ、無位無官となって悠々自適する楽しみを歌ったもの。
- ・不着衣冠 …役人生活を辞すること。
- ・抱花眠 …花に囲まれて眠ること。
- ・天 …炎天
- ・六月 …旧暦六月（現在の七月の酷暑の時季）

意 訳

- ① 役人生活を辞めてから半年近くなった。

若くして官僚になり、10年ほど完了生活が続けてきたが思いがけない父の死を機に役人をやめたがそれから半年にちかくなった。

- ② そこで水雲深き山中で花に囲まれながら眠っています。

悠々と生活する山中は自然がいっぱいの山水の地であり、水雲の深い優雅な山荘で花に（または女性や弟子たちに）囲まれ静かにうとうと心地よく眠っている。

- ③ 普段から無位、無官の生活の気楽さを心に思い描いていましたが、

官僚時代の激務から解放されて、このような無位、無官の生活の楽しさをしみじみと常日頃、感じていたが、

- ④ まず、第一に人に威張っていいのは、この六月の炎天にあくせくしないことです。

無官の楽しみの悠々な生活の中でも、今、一番人に威張ってよいことは、この六月の炎天下の熱い最中にも、あくせくせず、涼しげに、ゆったりした気持ちですごしている、この境地だ。

作 者

袁 杯（えんばい 1716～1797）

中国清時代の詩人。若く24歳で科挙に合格して高級官僚となり、父の死を機に33歳で官職を辞めて南京の西小倉山に邸を築き、隋園と称え悠々詩書を友として82歳で没す。

園田学園女子大学教授 岩崎 日出男

この詩を読むと、中国と日本との処と時に違いはあるものの、いつの世にも「すまじきものは宮仕え」（他人に仕えることはいろいろと気苦労が多く辛いものだから、できればやらないほうがよいということ。）という諺を思い起こします。その内容は、サラリーマンを経験したものであれば誰しもが羨み憧れるものでしょう。ただし、結句の「第一人に驕る六月の天」は、シニア専修コースで学ばれておられる学生の皆さんのような、実社会で長く家族や社会のためにご苦労された方へのみ実感と共感が許されることなのかもしれません。

大江教授「日本史学Ⅰ」学外授業

奈良国立博物館特別展「天竺へ 三蔵法師3万^きの旅」を観賞

【平成23年7月27日】

文・写真「けやき便り」編集クラブ



入館する前に、特別展観賞および周辺の見学のポイントを説明される大江先生。



学外授業に参加された方々をパチリ！

特別展には、藤田美術館の至宝「国宝玄奘三蔵絵」を前期と後期に分けて全巻を初めて公開されて圧巻であった。

この絵巻物は、三蔵法師が「不東(東に帰らず)」を唱え、かなりの困難を乗り越えて、仏典を求めるため西(インド)に向かわれたことが描かれているが、またこの旅の途中でいろいろな国に立ち寄られ、その国の国王からかなり優遇されている様子も描かれていた。

この旅は、中国の古典「西遊記」のモデルと思われるが、この絵巻物のどのような場面で、孫悟空が活躍したのであろうか。

法華堂(三月堂) ●ほっけどう

★国宝建築物



法華堂は、平成23年8月1日から平成25年3月末日まで、修理事業のため拝観停止になるので、拝観すると良いですよとの大江先生のアドバイスを実行したTSさん。

東大寺公式ホームページより

河合教授「国際文化学科」学外授業

「姫路太陽公園バス旅行」
【平成23年10月1日】

文・写真「けやき便り」編集クラブ

城のエリア



白鳥城



お城に向かって行進中！！



白鳥城で開催中
「トリックアート美術館」



忍者屋敷に囚われたシニア専修コース生
TSさんを誰か助けてあげてください。



どうしたら横になって歩けるのですか。

石のエリア



パリ凱旋門で記念撮影



どこから見ても、北京の
天安門広場でしょう！！



兵馬俑坑で河合先生と



チリ モアイ像



秦の始皇帝陵墓の兵馬俑
サイズは実物と同じ。1000体あります。



日本 埴輪の丘

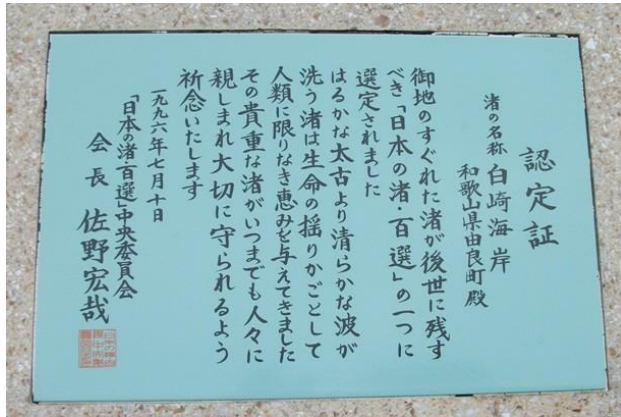


影山教授学外授業「日帰りバス旅行」

「紀伊国・白崎から藤白をゆく」

【平成23年10月15日】

文・写真「けやき便り」編集クラブ



白崎は由良港の北西に位置し、石灰岩からなる、文字どおりの白い岬であるが、バスが白崎海岸に入ると、視界に白一杯の海岸があらわれたのは驚きであった。

しらさき 白崎は 幸くあり待て 大船に ま梶しじ貫き またかへり見む 万葉集 巻九-1668



【興国寺】 本寺は葛山五郎景倫（願性）が鎌倉3代将軍源実朝の菩提を弔うため、安貞元年（1227）真言宗「西方寺」として建立された。正嘉2年（1258）心地覚心（法燈国師）が宗旨を禅宗に改めると、「関南第一禅林」として栄え、多くの高名な僧を輩出した。～略～ 興国元年（1340）には、後村上天皇から興国寺号を賜ったと伝えられる。～略～ 「径山味噌」「醤油」のわが国発祥の地として知られている。一寺の案内板より一



「醤油」[金山寺味噌]の販売店



この道は、正真正銘の熊野古道です。



得生寺にあった糸我坂の歌碑

あて 足代過ぎて いとが 糸賀の山の 櫻花

散らずあならむ 帰り来るまで

万葉集 卷七-1212



藤白神社は、有間皇子終焉の地として有名な熊野古道、藤白坂の登り口に近い山麓に位置する神社。中世熊野御幸の盛期には、九十九王子の中でも特に格式の高い五体王子のひとつとして崇敬され、熊野詣の途上における要所であった。



有馬皇子の墓

有馬皇子は、孝徳天皇の皇子で、謀られて天皇への反乱をしようとしたとされ、19歳で藤白坂で処刑されました。

家にあれば け 筥に盛る飯を いひ 草枕

旅にしあれば 椎の葉に盛る

万葉集 卷二-142



これは、藤白神社に隣接して、いわば全国の鈴木さんの総本家ともいえる「鈴木屋敷」です。

「姫路太陽公園バス旅行」参加記念写真



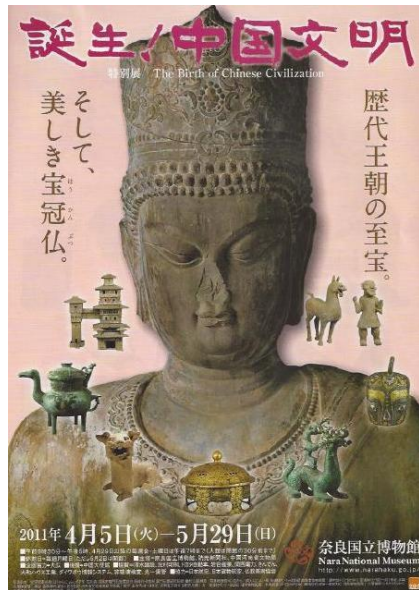
「紀伊国・白崎から藤白をゆく」参加記念写真



文学歴史学科

奈良国立博物館で「誕生！中国文明」を観賞して…平成23年5月28日

文学歴史学科 2年 遠藤 明



1. はじめに

「こんなパンフレットがありますよ、〈誕生！中国文明〉紀元前2千年。」

「紀元前」なのです。現在から振り返りますと、約4千年ほどの昔になります。そんな時代、「文化」というようなものなど存在していたのだろうか、と。そう思いますと、何となく興味がわいてきました。そこで、他の人にも声をお掛け致しました。

動物紋飾板
青銅・トルコ石 象嵌
偃師市二里頭
Ⅵ区11号墓出土
夏時代
前17～前16世紀
洛陽博物館蔵



「かつて幻の王朝とされた夏が、紀元前2千年頃に興隆」とあります。「夏王朝の始まり、それは、およそ紀元前2070年」と考えられるそうです。「中国最古の王朝は、夏王朝」（『史記』）、

「治水に功績のあった禹が、舜の禪譲（天子がその位を世襲によらず、徳のあるものに譲ること）を受け王位についた。以後世襲により十七代続き、暴君桀のとき、殷の湯王に滅ぼされた。」と記録にあります。

「王朝とは、王権が確立した段階であり、その王権を維持するためには、世襲による王権の安泰が必要。」だったそうです。

「夏王朝が書物に記載されるのは、王朝が滅んで、1千年以上たった戦国時代(前450～前221)のこと」、「甲骨文字(亀甲や獣骨に刻まれた中国殷代の象形文字、紀元前15世紀頃から使われたと考えられる。現存最古の中国の文字。)

の発見により、その存在が確認されたのは、殷王朝」、「各国の王は、自分たちの国こそ最も正統な中国であると主張し、祖先の系譜をどんどん古く遡らせて伝説の聖王に結び付けて」いったのだそうです。

「このような時代、弁論巧みに王たちに取り入ったのが諸子百家と言われる論客たち」であったといえます。しかも、この「古い時代に理想を求めたのが、儒家であり、その開祖は、孔子(前551～前479)である。」といえます。

「孔子は、古代の聖人君子を尊び、政治の範とした。」さらに、「堯、舜、禹になぞらうべき偉大な聖王で、夏王朝を開いた禹はもとより、殷王朝を建てた湯王、周王朝の基礎を築いた文王、武王、と周公に対する賞讃の言葉は、『論語』(孔子とその弟子たちの言行録)にしばしばあらわれている。」とあり、

「政治の理想は、夏、殷、周王朝にある」と言われています。

今からおよそ4,000年あまり前の夏王朝に政治の理想の一端が存在していたというのです。中国文明の底力、いや人間の創造力の底力というものの崇高さに、実に驚かされ、深く感銘を受けました。



図49 獣面文銅牌

1-3 河南省二里头遺跡、4 甘肅省天水市

5・6 四川省三星堆遺跡

2. 「夏」王朝というもの

「夏王朝の都である河南省偃師市二里头遺跡は、伊河と洛河の流れる平野にあり、遺跡はおよそ二キロ四方に広がっている」「二里头文化の時代を『夏』時代と呼んでいる」とあります。

「基壇の構築は、まず地面を硬い地層まで、1～2メートルほど掘り下げ、底から5～9センチの厚さに一層ずつ棒で土を突き固め、そのまま地面から80センチほどの高さまで基壇を築き上げている。ほぼ均等の厚さに土を水平に突き固めるこの工法を、版築という。中国では、ごく最近まで土壁や土壇の構築に広く用いられ、古代の日本にも、宮殿や寺院の基壇にこの技術が用いられている。」（「夏王朝」—中国文明の原像—岡村秀典著）とあります。

構築の技術も、長い年月の間にずいぶん磨かれてきたものと驚きます。

「中国では、前6千年紀に本格的な農業が始まった。高温多湿の南中国では、主に水田耕作をおこない、乾燥した北中国では、アワ・キビを主とする雑穀の畑作を行った」とあります。

「アワは、たんぱく質や脂肪が豊富で消化がよく、今日のわが国では、『粟おこし』などの菓子類や小鳥のえさに用いられるぐらいだが、北中国では、今でも妊婦の食事や朝食の粥に食べることが多い。キビも栄養価が高く、古代中国では、酒の原料にされることが多かったが、わが国では、キビ粉で作る団子が知られるぐらいである。」との食生活の一端がうかがえます。現在に通じるものがあります。

3. 「動物紋飾板」というもの（岡村秀典氏の書物によると、「獣面文銅牌」）

展示会場に入って、最初に目に付いたのは、右側の壁の中ほどに掲げられた小さなガラスのケースでした。その中には、緑色のガラス板のようなものが置いてありました。それが、「動物紋飾板」というものでした。それは、「装身具の一つとして使われていたもの」だったそうです。

当初に見せてもらったパンフレットの説明には、「青銅・トルコ石 象嵌 偃師市二里头VI区11号墓出土 夏時代 前17～前16世紀 洛陽博物館蔵」とあります。「象嵌とは、工芸品の加飾法の一つ。地の素材を彫って、その部分に他の材料をはめ込んで模様を表す技法。」だそうです。

これは、「草履形の銅板に施した獣面文にトルコ石片をモザイク状に詰めこんだ銅牌」といいます。発見されたのは、「二里头遺跡の三基の墓から一点ずつ出土」したものだそうです。

これは、「目の形を基に、円い目の獣面と目尻のつりあがった獣とに二分」しているようです。「円い目の銅牌は、二里头二期のV区四号墓(図49の2)と二里头四期のVI区五七号墓(図49の3)とから出土し、つり目の銅牌は、二里头四期のVI区11号墓(図49の1)から出土している」と言われています。

「銅鈴は、横からみると台形、上や下からみると杏仁(アーモンド)形ないしは楕円形で、

中空になっている。」といひます。使い方は、「歩いた時に、チリンチリンと金属音がするように、銅鈴は、腰にぶら下げて用いたものであろう。その当時、黄金色に輝く銅を目にする機会は少なく、その音を聞くこともまれであったはずだから、それは、人を驚かせるに十分であったろう。」と、書物には書かれています。「わが国の弥生時代の銅鐸は、この銅鈴に起源する。」と言われているそうです。

「^{じゅうめんもんどうはい}獣面文銅牌は、草履形の銅板にほどこした^{じゅうめんもん}獣面文の形に合わせて小さなトルコ石片をモザイク状に詰めこんだものである。被葬者の腹の近くから出土するため、^{そくえん}側縁の四か所にある^{ひも}紐で衣服に綴じつけていたものであろう。作られた当時は、赤銅色の銅板に緑色のトルコ石が鮮やかに照り輝き、銅鈴とともに、所持する人の^{いげん}威厳を一層高めたに違いない。」と言われている。「直径は、10～17センチ」ぐらいの大きさのものとひひます。

^{じゅうめんもんどうはい}「獣面文銅牌」は、所持人の^{いげん}威厳を表しているといひますから、その人なりの優しさ、温かさ、強さ、行動力などを象徴的に表しているといひます。このはめ込む技術にも驚かされます。(終わり)



図34 獣面文銅牌二里頭 2～4期

参考図書

- ・「夏王朝」中国文明の原像 岡村 秀典著
講談社学術文庫 2009

庄下川だより

園田学園のそばを流れる庄下川には、魚や鳥たちが生活をしています。木々が紅葉しています。一度、庄下川まで足を延ばして、その生きいきとした自然を覗かれては如何でしょうか。



国際文化学科校友会

「明石海峡大橋を歩く」

【平成23年7月30日】

文・写真「けやき便り」編集クラブ



J R 舞子駅に午前9時に集合



準備室に集められて、橋の概要と説明を聞き、ベストとヘルメットを着用する。



橋梁科学館で説明を聞く。



さあ！これからスタート
がんばるぞ！





このグレーティングの上を約1 km歩きます。下は、当然、明石海峡です。



海面より 289mの塔頂に登り、見事な眺望を楽しむ参加者たち。



塔頂より舞子を望む。



担当者のあとに続いて、塔頂を降りる。



「第48回けやき祭が開催されました」

【10月22日(土)10:30~17:00】

【10月23日(日)10:30~15:30】

文・写真「けやき便り」編集クラブ



野外ステージ	
● 1日目 ● 10月22日(土)	● 2日目 ● 10月23日(日)
10:30 オープニング	10:30 鼓情炎
11:00 吉本芸人お笑いLIVE シャンブーハット・笑い飯・尼神インター	11:00 ポップ演奏「詩+低音」
12:30 なおちゃんと遊ぼう	12:00 チョットキモチー
12:50 渡辺ケイジ(ピアノ弾き語り)	12:30 スポーツ振興センター「戦績報告会」 ～テニス部・ソフトボール部・ラクロス部～
13:30 Shabby HeArts	13:00 吉本芸人お笑いLIVE アジアン・千鳥・ボラロイドマガジン
14:10 手話部「翔」	14:00 手話部「翔」
14:40 フォークソング部	14:30 チアリーディング部
15:00 なおちゃんと遊ぼう	15:00 モダンダンス部
16:00 アームレスリング(自主企画)	15:30 ビンゴ大会



22日、23日とも雨模様のあいにくの天候であったが、活があり、若さが勝ったけやき祭であった。

そのけやき祭で、23日13時から開花亭で「けやきコーラス部」の演奏があったが、その同じ時間帯に、屋外ステージでは「吉本お笑いLIVE」があり、観客はそちらに行ったようだったが、アンコールもありすばらしい熱演であった。

2011

SONODA

48th けやき祭

模擬店&展示はここでやってるよ♪

野外ステージ



ふわふわ





「コーヒー教室が開催されました」

【6月29日（水）14時40分～16時10分】

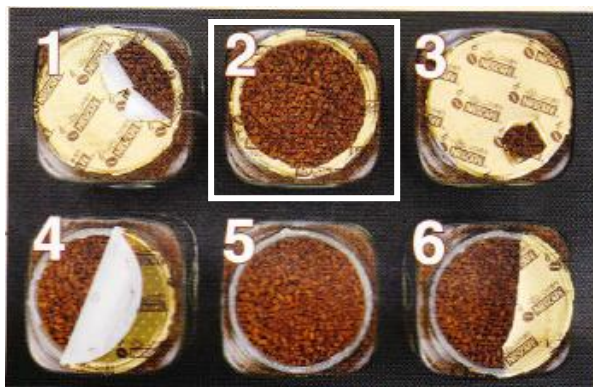
文・写真「けやき便り」編集クラブ

チャティーで、ネスカフェ主催のコーヒー教室が開催されました。

参加費は、お土産付きで300円でしたが、申込開始後3時間ほどで定員(40名)が一杯になるほどの人気ぶりでした。受講者数は、46名でした。

ネスカフェのおいしい淹れ方

1. ネスカフェとお湯の黄金率
美味しさを最大限に引き出す比率
お湯 140ml に対し、ネスカフェ 2 g
2. 水にこだわる
コーヒーに合う水はどっち？
硬度の低い軟水がおすすめ
3. 実は美味しい、水道水
水道水でネスカフェを美味しく淹れるには？
カルキ臭が気になる場合は、沸騰させる
4. 湯を究める
お湯にもある。コツとテクニック！
沸騰して一呼吸置いたお湯90℃を使って、
カップに注いで、80～85℃
5. フタのおはなし
美味しさを保つ秘密とは？
正しい開封方法は、No. 2



コーヒー5つの疑問

1. コーヒーは胃を悪くするの？

コーヒーの飲用と胃の関係について「ブラックで飲むと胃が心配」、

「空腹時の飲用は胃に悪いのでは」と思われているようですが、

健康な方が普通に飲んでいる限りコーヒーが胃を悪くすることはありません。

2. 妊娠中のコーヒーはダメなの？

コーヒーの飲用による、妊産婦や胎児への影響を示す信頼に足る研究結果は報告されていません。

適量の飲用であればそれほど神経質になることはありません。

それでもカフェインが気になる方にはカフェインレスコーヒーがおすすめ。

無理にコーヒーを我慢せず、カフェインレスコーヒーやカルシウム摂取の観点からミルクたっぷりのカフェオレをゆったりとした気分で楽しみ下さい。

3. 子どもは何歳くらいからコーヒーを飲んでもいいの？

小さなお子様は基本的にはコーヒーの飲用はお控えいただくようお願いしていますが、小学生以上のお子様ならば、ミルクをたっぷり入れて、薄めのコーヒーをお召し上がり下さい。

4. ポリフェノールってコーヒーにもふくまれるの？

ワインやココアで知られるようになったポリフェノールは健康成分として注目されていますが、コーヒーにも「クロロゲン酸」などのポリフェノールが含まれ、その量はカフェインより多く、コーヒーの褐色や苦味、香りのもととなっています。

5. コーヒーを飲むと興奮するの？

コーヒーにはカフェインが含まれているので飲むと興奮すると思われがちですが、コーヒーの苦味と酸味、そして特有の香りが気分を安定させてくれることが分かっています。仕事や勉強の合間、またスポーツの後などに、ゆっくりと飲む1杯のコーヒーには、カラダをリラックスさせる力があるのです。

プチ豆知識

カフェインとは？

カフェインはアルカロイドという化合物の仲間です。頭痛薬、風邪薬などの医薬品に使用されることがあります。コーヒー1杯(約140ml)に含まれるカフェインの量は約55mgで、紅茶、煎茶などにも含まれています。

飲用時カフェイン含有量 (%)

インスタントコーヒー	0.04
レギュラーコーヒー	0.06
紅茶	0.03
煎茶／ウーロン茶	0.02

(日本では「インスタントコーヒー」と呼ばれていますが、欧米では「ソリュブルコーヒー」という言い方が一般的です)

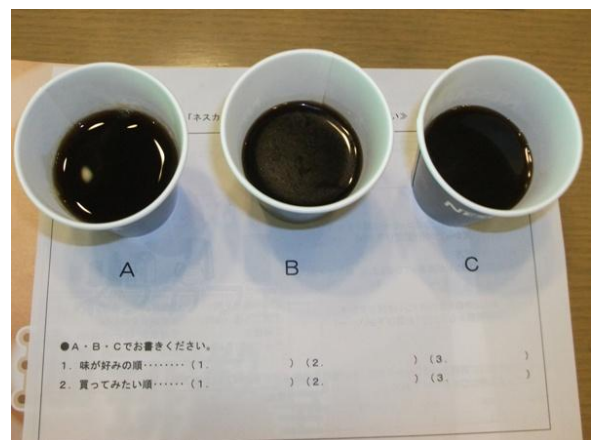
ポリフェノールとは？

ポリフェノールは植物が光合成の過程で作る物質で、植物が酸化から身を守るために作り出すと考えられています。野菜や果物、そしてそれらを原料として作られる飲み物等に含まれ、カテキンやアントシアニンなどその数は4000～7000種あるといわれています。

飲料中の総ポリフェノール量(mg/100ml)

赤ワイン	230
コーヒー	200
緑茶	115

注. 以上の資料は、コーヒー教室で配布された「ネスカフェ珈琲教室」「知っておいしい珈琲のはなし」から転用させて頂きました。



塚口周辺スポット



- ① 「イタリア家庭料理 ポンジョルノ」 阪急「塚口」駅からすぐ。おススメは“もちもちした食感とソースとのからみの良さが絶品の生パスタをどうぞ”とシェフのお話でした。

Tel (06-6422-5223)

- ② 「中国旬彩 ちん竹林」 店内に入ると意外に広く、ちょっとしたパーティもできそう。豊富な料理で親しみやすい味。思ったほど高くないと感じた。

Tel (06-6429-9701)

- ③ 「懐い古や 阪急塚口店」 (古くて新しい飲み食い処) 何といっても午後3時から営業しているのがうれしい。酒も、料理も手ごろな値段。席数も110もある。

Tel (06-6421-7045)

- ④ 「昆布の黄金屋 塚口店」 “生駒山系より50年かけて湧き出る交野の水、オリジナル醤油の「黄金蔵」、北海道南南茅部産天然真昆布を初めとする素材。白いごはんどうぞ。”

Tel (06-6426-1008)

- ⑤ 「手打麺処 辰庵」 もう30年もやっておられるとの事。控えめなご主人と元気な奥様が作るコシのあるそばは嵌ります。園田からの帰り際に寄られては！

Tel (06-6427-5100)

- ⑥ 「たこ焼き いっぷく YA !」 午後5時～6時半は“おつかれさんセット”。生ビール(中)とたこ焼きで何と500円。もちろんオイシイ！。

Tel (06-6423-3789)

ニュージーランドで出会った新しいトモダチ

今年の2月、ニュージーランド第2の都市クライストチャーチで起こった大地震で多くの日本人が犠牲になったことがありました。その地震の起こる2週間前、第3回目のニュージーランド学外研修で参加者30名の方々と共に私も同地を訪ねていました。

プログラムのひとつ、2月6日のワイタンギデイ（ワイタンギは地名。先住民のマオリとイギリスからの移住民との絶えなかった抗争の終結協定の地）には、アカロアまでその記念祭の見学に出向いた。その日は珍しく暑い日で、数日前から風邪気味で体調を崩していた私は、しんどいので日蔭のベンチに座って休んでいた。そこへアイランダー（サモアなど南太平洋の島々出身でニュージーランドやオーストラリアに出稼ぎに来ている人々の総称）と思しき男性が来て横に座ったので話を始めた。彼は名刺をくれた。名前がポール・タマグシク。クラストチャーチの公園のレンジャーとあった。「タマグシク?!」と思ったとたん、なんと彼は、自分の祖先は日本人と言いだした。「えっ、なんでえ?」と会話を続けると大方次のことであった。

- ① 自分の曾祖父(マツジロウ・タマグシク。グレートグランドファーザーと言っていた)は沖縄出身で若いころバヌアツに来て、現地の女性と結婚した。
- ② そこで五男一女をもうけた。自分の祖父(シンキ・タマグシク)は4番目であった。祖父も現地の女性と結婚した。
- ③ その後太平洋戦争が起こり、日本人の男性はみんな日本に帰った(帰された?)。祖父も祖母も泣いた。みんな泣いた。祖父とは、そのままとなったが日本に帰って日本人と結婚し、家族が沖縄にいるはず。
- ④ 祖父の2番目の兄の息子(エイシュン)とは、25,6年前にニュージーランドに来るまで一緒だったが、エイシュンは、日本に帰った。その後交信はない。ぜひ、エイシュンに会い

総合生涯学習センター 松成 雄三

たい。亡くなっていたらその家族に会いたい。自分の日本の親戚に会いたい。

なぜ、エイシュンと交信がないのか?と尋ねると

⑤ 自分は日本語ができない。エイシュンは英語が話せない。ということであったので、

⑥ それだったら、このわたし(松成)が間に入って連絡をするよ

と言い、メールをもらうようにした。

その後、エイシュンの沖縄の住所がわかり連絡をとったところ、エイシュン(玉城英俊)は数年前に他界していたが、その子息と連絡がとれた。エイシュンからはポールや祖先のことを耳にしていたとのことであった。ポールはこのことを知ってとても喜んでくれたが、いまのところ来日は実現していない。彼が来日するときは私も同行することになっている。

このことで、関心を持ちいずれリタイアしたら調べようと思っていたことが、日本の移民の歴史。1900年ごろ沖縄からニューカレドニアの鉱山採鉱夫として相当数が出稼ぎ移民として渡ったようだ。その後どのような事情でニューカレドニアからバヌアツへポールのグレートグランドファーザーが移ることになったのか。いずれにしろこの後の太平洋戦争で一族の運命が大きく変わってしまった。

ポールとはその後も時折メールのやり取りをしており、彼はいまだ、東日本大震災のその後、中でもフクシマ原発の影響を心配してくれている。



〔所思小話, その4(終)〕

私の映画観

国際文化学科 2年 小村 良二

1. 映画制作の基本姿勢

2010年11月に公開された邦画「13人の刺客」(監督;三池崇史,主演;役所広司)は,ストーリーの7割方が決闘場面(殺陣)である。1960～1970年代前半に制作されたマカロニ・ウエスタン(イタリア映画)もストーリーの大半が決闘場面で占められ,当時は人気が高かった。マカロニ・ウエスタンは西部劇の代作として制作され,クリント・イーストウッド(現在はアメリカを代表する映画監督)らが頻繁に出演したが,現在では全く消えてしまった。マカロニ・ウエスタンと同様に,銃器による派手な応酬場면을繰り広げた韓国映画「シュリ」(監督;カン・ジェギユ,2000年日本公開)は,韓流映画の先駆けとして現在でもレンタルビデオの売上げがある。同じ決闘場面を売りにしていてもこの2作品にはストーリー性の有無,という大きな違いがある。マカロニ・ウエスタンは殆どストーリーがなかったため,現在ではかつてそのような映画が上映されたことすら人々の記憶に残っていない。一方,「シュリ」の主題は北の女スパイとの悲恋を描いていて映画は実に面白く,現在でもレンタルビデオの売上げがあるのも頷ける。

一般にアメリカ映画(以下,一般の洋画と区別して“アメリカ映画”と記述)はストーリー性よりも娯楽性(主にアクション)を重視しており,毎年多数の娯楽本位の映画が制作される。したがってストーリー性を重視した良質の映画が制作されると,しばしばアカデミー賞の候補作品に挙げられる。このように娯楽性(主にアクション)を重視するアメリカ映画に対して,映画制作の基本姿勢をストーリー性に置いているのは邦画であり,これは現在も昔もあまり変わっていない。

何故,邦画は制作の基本姿勢をストーリー性に置いているのか。邦画は,映画監督を中心に

グループを組んで撮影・制作されることが多く,1本の映画が完成してもその撮影・制作グループは解散せず,しばしば次作も同じメンバーで制作される。その撮影・制作グループは,監督のお気に入りのメンバーから構成されるために“〇〇組”などと呼ばれる。度々指摘されるようにこのようなグループ制は,脚本家などとの分業体制が整っていない邦画産業の弊害を補うために生まれた横割り組織であり,映画制作の職人集団である。この点はアメリカ映画の制作現場と異なるところであろう。このように映画監督を中心にしたグループ制で撮影・制作される邦画は,原作や脚本を映画監督自身が担うことによって制作がスムーズに進行し,必然的に制作の基本姿勢はストーリーの重視や登場する人物の心情表現などに焦点が定まることになる。現在でもかなりの映画は,原作や脚本を映画監督自身が書き上げている。

2. 邦画の芸術性は一級品

ストーリー性を重視した邦画は往々にして長編作を生むが,かつてギネスにも登録された小林正樹監督作品「人間の条件(全6部作)」(五味川純平原作,1959～1961年公開)に至っては,9時間30分にも及ぶ超大作である。ストーリー性を最も重視したのは溝口健二監督であろうか,「山椒大夫」(田中絹代主演,1954年公開),「新・平家物語」(市川雷蔵主演,1955年公開),「赤線地帯」(京マチ子主演,1956年公開)など多数の秀作がある。

一方,映画は総合芸術と言われる通り,映像美も芸術としての主要素である。邦画はストーリー性を重視するために映像美にはやや欠ける嫌いがあるが,それでも優れた映像美を醸した秀作は少なくない。新藤兼人監督作品「裸の島」(乙羽信子・殿山泰司主演,1960年公開)は,台詞のない白黒サイレントである。それだけに映像は鮮烈で素晴らしく,特に,主演の乙羽信子がドラム缶の風呂に入浴して仰ぎ見た天空の星降る美しさは圧巻であった。

映画の主題は孤島で暮らす老夫婦の単調な日常を描いたものだが、モノクロ映像と俳優の無言の名演技(心情表現)の相乗によって、極貧の生活と島の過酷な農作業が観客に切々と伝わってくる。正しく第一級の名作である。

ストーリー性と映像美の両方を備えた秀作としては、野村芳太郎監督作品「砂の器」(松本清張原作, 1974年公開)が挙げられよう。ハンセン病に罹患した親子が故郷を追放されて放浪の旅をする姿を、日本の四季毎に移ろう自然の風景地を後背にして描写した映像は傑出した美しさであった。映画の主題は、犯罪者を作り出すに至ったハンセン病患者の社会的差別や偏見を厳しく断罪したものだが、松本清張の原作本よりも犯罪の背景を強く浮き彫りにした点でスクリーンの方により迫力があり、多数の映画賞を受賞した傑作である。近年に上映された邦画の秀作として挙げられるのは、2006年公開の中島哲也監督作品「嫌われ松子の一生」(山田宗樹原作, 中谷美紀主演)であろう。ストーリーは、僅かなボタンの掛け違いから人生に破綻してゆく惨めな松子の一生を描写しながら、中島監督は松子に憐れみを掛けるのではなく優しく寄り添い、懸命に生きたその生涯を称賛している。その映像の素晴らしさは、ストーリーの最終章において天国へ登る松子を花鳥や星が舞う花道に捉えたCG映像に見事に象徴されている。

3. 21世紀の世界の映画界

近年、アメリカ映画は代わり映えのしない刑事アクションものや、現実離れた異次元の世界などを描く従来の主題から脱却できず、苦しんでいるように見える。その要因としてはアクション俳優が減少したことや映画の制作費と興業費の問題などがあるようだが、私はアメリカ映画の制作上の根深い構造的な問題があるように思えてならない。大リーグ(ベースボール)と同様にアメリカ映画界にも、外国人の助っ人が必要な時代になりつつあるのかも知れない。

邦画は、小津安二郎監督作品や黒澤明監督作品などの一部の高名な監督の作品だけが突出

して評価される時代が永く続いた。しかし、この数年間に邦画の評価は大きく変化しつつある。渡米した日本人俳優たちがハリウッドで活躍し、また、気鋭の邦画監督たちが国際映画祭で次々と意欲作を出品して存在感を示し、邦画株が上昇しているからである。

このように国際的に邦画の優秀性が高く評価されているとはいえ、中国は次々と大作映画を制作して気炎を上げているし、韓国映画も伸長著しい。さらにはインドやイラン、中南米諸国も秀作を公開している。世界の映画界はようやく大競争時代に突入した、と見るべきなのだろう。映画制作の現場が十分に近代化されているとは言い難い邦画界の今後の動きが注視される。

私の文学歴史ノート

「花の好きな」万葉の歌人「大伴家持」
一充実した「越中守時代」をたどって一

文学歴史学科 2年 遠藤 明

○ 何となく「万葉の歌人」に親しみを感じつつ

早いもので、もう二年目も後半となりました。残る日々が少なくなりました。この間、文学歴史学科コースを象徴するかのような北陸路の旅は、よい思い出となっています。氷見市・高岡市の辺りをめぐりました。

それは、「万葉の旅」として、大伴家持の越中守時代にあやかれる機会でした。万葉にふれることの少ない私にとっては、またとない機会でした。平成22年9月21日(火)・22日(水)の一泊二日でした。

「こしのくに」は「古くは、越中国を含む北陸地方一帯を呼び、現在の福井・石川・富山・新潟県域が該当する」ようです。「越国」から「越前・越中・越後」が分かれ(持統朝半ば、7世紀後半)、越中国域に含まれるのは、
となみ いみず ね ひ にひかわ
「砺波・射水・婦負・新川の四郡(国府は射水郡)」のようです。その中で、越中国庁のあつ

たのは、高岡市「伏木」といわれています。

「越中一の宮の^{けた}気多神社境内に大伴神社が、創建(昭和60年)」されています。「神苑の森林中に、『かたかご』の群落」、今でいう「かたくり」が作られているといひます。



伏木周辺の地図

近年、高岡市では、「越中の家持」に留意して「高岡万葉祭り」が盛大に行われているそうです。

当時の国庁は、今日の「高岡市伏木古国府の真言寺院勝興寺の地」といわれています。旅の二日は、ちょうど修理工事中だったことと、折悪しく雨降りであったことによって、勝興寺を十分眺めることができませんでした。残念でした。

当時の「国守館跡は、JR伏木駅から勝興寺にいたる道の南側、伏木測候所のあたり」といわれています。

もともと、「越中」は、大伴家持を知るうえで、貴重な時代を反映しているといわれています。そこは、家持が、「濃密に時を過ごした場所」でもあったようです。それに、家持は、「生来、花の好きな人であって、生涯の中で、花を詠むこと135、そのうち、越中では、約70の多数におよんでいる。」といひます。ですから、この時期は、家持にとって、大変意義深いものであったといえます。

その理由としては、次の3点が考えられます。

一つには、「家持生涯の総歌数の半分に近い長短歌約 223 首(長歌 35・短歌 187・旋頭歌 1)が越中で生まれている」ということです。一つには、「天平 18 年(746)6 月 21 日付人事発令、任地には 7 月から天平勝宝 3 年(751)7 月 17 日

まで、まる5ヵ年」の時期を過ごしているということです。しかも、「養老2年出生説に従えば、29歳から34歳に至る青年貴族」であり、「働き盛りであった」ということです。いま一つには、「彼の周辺の人との交友関係が豊かであった」ということなどです。

そのようなバイタリティに感心し、私も、何となく大伴家持に興味を持てるようになりました。

「朝床に 聞けば遙けし 射水川 朝漕ぎしつ 唱ふ船人」大伴家持(巻十九-4150)歌意は、<朝の床に耳を澄まして聞けば、射水川を朝漕ぎしてさかのぼりつつ唄う舟人たちの声よ>となりましょう。

この二首の歌から、「家持が美のピークに達したことを思えば」、「家持の生涯の中での」、「風土と結びついた越中生活の深さを思うのである。」と書かれていましたから、越中生活における家持のものの見方や感じ方や色や匂いの鋭さなどが、一層冴えていたように思われます。「生活の深さ」が感じられ、いっそう歌の道が磨かれていたように思います。

○「をみなえし」を眺める
(万葉表記、「思草」)

「家持が越中に赴任したのは、7月でした」から、「8月」、「越中の守の館に集まって、歓迎の宴が開かれた」といわれています。

「秋の田の 穂向き見がてり 我が背子が ぶさ手折り来る をみなえしかも」大伴家持(巻百十七-3943)

歌意は、<秋の国の垂穂の出来具合を見回りがてら、皆さんがたが手土産として、こんなにたっぷり手折ってきてくださったおみなえしの花のうれしいこと。> となりましょう。

「この宴は、家持としては、着任のご挨拶」といったところだったのでしょ。お客様方にとっては、「新国守の歓迎パーティーの心を込めたもの」であったといえましょ。

おそらく「我が背子」というのは、お客様方のこと」でしょう。でも、この言葉は、

「そこはかとなく、恋の気分もあって」味わい深いものともいわれるそうです。

「新しい国での新しい仕事」が始まったのです。「精を出すぞ」と自分の心を引き締めているように思われます。

「故郷の愛する人たちと別れてきた寂しさをうちはらって」と、自分を元気付けているのでしょう。それは、「人生の節目にあたって、自らを祝し、自らを励ます家持の越中第一声」だったようです。

この大伴家持の歌に対して、大伴の池主は、次のように返しています。

「をみなえし 咲きたる野辺を 行き廻り 君を思い出 廻り来ぬ」大伴池主(巻十七-3944)
 <おみなえしの咲き群れた野辺をめぐらううちに、あなたのことを思い出し、廻り道をしてやってきましたよ。> 歌意は、こういえましよう。

この歌からは、「打てば響いて」答えている大伴の池主の賢明さが感じられます。

「恋の匂いもする」点も、何だか窺えるようです。それは、家持が、“我が背子”などと、「女仕立てみたいな歌を詠みかけてきた」ので、大伴池主は、“君を思い出”などと、「答えて見せた」といわれています。

もともと、大伴池主は、大伴家持の「部下であり、同族でもあり、詩歌への深い傾倒を同じくする」間柄といえます。

家持と池主は、「家持が越中に赴任する8年前に、親しく心触れ合う歌友として、橘家の宴に同席していた。」といわれています。「橘家一姓の一。古代の名族。708年(和銅1)に美努(みめ)王の妻、県犬養(あがたいぬかいの)三千代が賜った橘宿禰の姓を、子の葛城王(諸兄)らが臣籍に下って受け継いだのに始まる。諸兄らは、以後の朝政に重きをなしたが、平安時代の承和の変で逸勢が失脚したころからあとは衰退した。」といわれています。

また、「(奈良麻呂(?-757)一奈良時代の廷臣。橘諸兄の長男。父の勢力のもとに累進して参議となる。藤原仲麻呂の台頭を排除しようとして、不平貴族を糾合(ある目標のもとに、人々を呼

び集めること)して乱を企てたが、事前に漏れて獄死。)」といわれています。

○「堅香子」の花を見つめる(万葉表記「堅香子」)

六甲高山植物園の散策に出かけたとき、ガイドさんから、「カタクリ」の花についての説明がありました。背丈20~30センチメートルほどの紫色をした可愛い花でした。それが、大伴家持の歌に出てくる「堅香子の花」というものであると授業でもうかがいました。

確か寒い時期であったように、覚えていません。それが、大伴家持の越中で作られた歌ですから、「堅香子の花」の育つ環境も、「北国の植物」ということになります。その点、改めて納得致しました。

いまここに、「堅香子の花」という言葉を目にしますと、あれだなと思い、何だか「堅香子の花」そのものにも自然と親しみが感じられるようになりました。

「堅香子を攀ち折る歌」

「もののふの 八十娘らが 抱み乱ふ 寺井の上の 堅香子の花」(巻十九-4143)大伴家持
 —「もののふ」とは、宮中に仕える文武百官の人々のこと。これには、多くの氏出身の人がいたので、「もののふの八十」という形で用いられている。もののふが、「八十」の枕詞となっている。「寺井」は寺の境内にある井戸のこと。「上」は傍ら、ほitori。一
 ですから、歌意は、たくさんの若い娘たちが、入り乱れて汲みに来る井戸のほitoriに、紫色をした可憐な「かたかごの花」がさいている。>ということになりましよう。

「『かたかご』という植物を詠んだ歌は、『万葉集』約4,500首のうち、この一首だけ」だそうです。

現在、『かたかご』は、カタクリであることが定説となっていますが、もともと、それは、鎌倉時代の初期に、仙覚(「万葉集注釈」(仙覚抄)が、従来無訓の歌に訓点を著したのがはじまりとなっているそうです。

この読み方を、「かたかご」であると唱えるまでには、実体が分からなかったので、長い時間を要したそうです。今では、高山植物園で拝見できます。

とにかく、それは、厳しい北国の生活にあって、一生懸命咲いている花ですし、それは、眺める人に、ほっと心温めるいのちを感じさせるようではなかったのでしょうか。若い娘たちのつづやき合う姿は、これまた温かい雰囲気^{かも}を漂わせ、華やかさや和やかさを醸し出しているといえましょう。

その時代、「水汲み^{みずく}は、若い女たちの仕事」だったそうです。「彼女たちが、寺井の傍らに集まり、水を汲むとき、そこは、いつも華やかな社交の場になる」そうです。もともと、「昔は、各地に、清らかな水の湧き出る泉があり、そこに、人々は、水を汲みに集まり、社交の場であった」ことがうかがわれます。

「越中では、カタコ」といっていたとの話もあるそうです。

「カタクリの南限は、四国」だそうですが、それは、「まれであり、関西には比較的少ない。」といえます。「どちらかという、北国の植物」というわけです。ですから、かの植物園も「高山植物園」なのです。

「北国の春は遅いが、早春の4～5月頃に、ヒメユリに似た紅紫色の花を下向きにつける葉は、淡緑色で紫色の斑紋が見られ、清楚で、可憐な花である。『カタカゴ』は、“傾いた籠”からきているという。」といえます。そのようなことから、大伴家持は、「繊細鋭敏な五感の持ち主」だといわれていることも、少しはうなずけるようです。

ある書物には、この「堅香子^よを攀^よぢ折る歌」や次の「遥^{はるか}に江を浜^{さかのぼ}る船人の唱^{うた}を聞く歌」は、大伴家持が「美のピークに達した」時期の表現といわれています。

「遥^{はるか}(はるか)に江を浜^{さかのぼ}(さかのぼ)る船人の唱^{うた}(うた)を聞く歌」を見つめてみましょう。

ですから、大伴池主は、「家持より以前から越中に来ていたらしいが、家持の部下として、また、一族として、殊に親しく交わり結ぶ」ことになったのだそうです。

「をみなえし」は、オミナベシ・オミナメシの

ほかに、女郎花(おみなえし)、女郎花(じょうばな)、粟花(あははな)、乳草(ちちぐさ)、小米花(こごめばな)、盆花(ぼんばな)、仏草(ほとけぐさ)、思い草(おもいぐさ)などの別名があるそうです。つまり、この花は、「形質や人とのかかわりをよく表している」といわれています。とりわけ、「オミナエシ」は、「女性に見立てられ、女性にかかわる歌や物語になっている」といわれています。

「池主が、“君を思い出”というとき、その思いは本物であった」のでしょうか。「あなたのことを思い出し、懐かしいその思い出にふけりつつ、ずいぶん回り道をした」というのですから。「その思い出の中には、何があったのでしょうか。」おそらく、「8年前の都にあった日の橘奈良麻呂の宴なども」含まれているでしょう。

この時期は、「若くて、明るく、輝いて」いたように思われます。

家持、池主の二人は、「共に都を遠く離れ、天ざる鄙(都から遠く離れた土地)に単身赴任してきた寂しさ」を「歌い合い、慰め合っている。」と思われます。

○「大伴家持」の人柄を推し量って

大伴家持は、何しろ、「29歳から34歳に至る」「働き盛り」であり、さらに、「打てば響いて」答える(池主の人柄)という点からも、おそらく、「繊細鋭敏な五感の持ち主」であり、物の見方や感じ方、あるいは、物の色合いや匂いを嗅ぎ、歌に取り入れようとする機微に長けていた人であったように思われます。

家持と池主の間柄も、池主が、家持の「部下であり、同族であり、詩歌への深い傾倒を同じくする」とありますように、家持は、「彼の周辺の人との交友関係が豊かであった」ということが、おのずから納得できましょう。

多くの歌が、「越中で生まれている」という点についても、記録にありますように、長

短歌約223首といますから、相当な才能の持ち主だったといえます。

あれこれ総じて考えますと、「大伴家持」という人に、少しずつ触れることができたようにも思いました。この機会は、そのように思う「北陸路万葉の旅」でした。

過日、六甲高山植物園へ、散策に出かけました。

ちょうど、カタクリの花が、あちらこちらに咲いていました。紫色の花を咲かせていました。かわいい感じがいたします。花卉は、6枚で、下向きに、3枚、それぞれの間から、さらに、残り3枚が顔を出しています。そして、初めは、6枚とも、下向きに、釣鐘のように、花卉を伸ばしています。花卉が、満ちて反り返ってきますと、ある時、サッと花卉だけが、上向きになります。しかし、雌蕊は、そのまま下向きのままなのです。

不思議なものです。生命力があるといいますが、寒さという環境に適合するように備えているといいますが、実に潜在力の強いものです。生きる力の強いものです。

そして、花を咲かせるには、5年もかかるといえます。

気の長い話ですが、育ててみようと思いましたので、散策の帰りに、ポットを一つ買い求めました。(終わり)



(堅香子の花)

参考図書

- ・「日本文学」の講義資料(平成22年度、景山先生の授業における配布プリントから)
- ・「万葉の歌びとと風土」 犬養 孝著 中央公論社 1988
- ・「わが心の大伴家持」 清川 妙著 雄飛企画発行 2006(高岡市万葉歴史館で購入)
- ・「富山県の歴史」 坂井誠一著 山川出版社 県史シリーズ16 昭和51年発行
- ・「万葉植物事典」 一万葉植物を読む― 山田 卓三・中島 信太郎 北隆館 1995

作庭家の思想

国際文化学科 3年 神内 重明

平成23年10月1日(土)国際文化学科校友会主催で太陽公園(姫路市)を河合利光教授の案内で訪ねた。城のエリアはドイツのノイシュヴァンシュタイン城を再現した立派なもので、管理も行き届いていて素晴らしいものだった。

一方、石のエリアでは、世界の遺産、石像がトルハルルバン(韓国)を初め50を超す石像が並び立てられている。設置当初は石像が目立つ様に立てられ、植栽にも工夫がされていたと思う。訪ねた時季、植栽は大きくなりすぎ、石像の特長など見えない状態、人は立止ることなく通り過ぎていく様子。残念なことだ。

京都に現存する名庭は、建築とは異なり、作庭家の名前は、明確な記録には残されていないが、建造物に合わせてその作庭家の思想が残されている。京の庭を訪ねる人々は作庭家の名前は知らされずとも、庭と対峙することで深い思いにいたることが出来る。

大きく刈り込まれた植栽、三尊石、滝石など石組みの姿が眺められ、見る人の心を癒してくれる。前述の通り庭園の作庭家は建築家と異なり名前は残されないが立派に芸術家

としての素養をもって作庭に当たった筈である。

名庭を訪ねるたびごと、時代と作庭家の思想、思いを推測することも楽しみの一つである。今回の太陽公園、石のエリアは管理不十分と、石の文化思想の欠如しているのではないかと、残念に思った次第だ。

梅花藻と京極家の菩提寺探訪

文学歴史学科 2年 志方 得雄

7月JR大阪駅の巨大な街巡りの企画が終わり、8月4日には大阪から片道1時間半と、少し遠方ではあったが、盛夏のこの時期にしか見られない醒ヶ井の梅花藻と大河ドラマお江の姉、お初の嫁ぎ先である京極家の菩提寺がある柏原を訪れた。

参加者は10名、神戸から出発する人、大阪駅から集合する人、山科から合流する人、そして彦根から乗られた人、各人バラバラに同じ電車に乗ってもらったが、乗換えする米原駅の大垣方面のホームで、全員集合する事ができ、お世話役としてひとまず安心というところでした。

柏原では、ボランティアガイドの方から、駅前にある中山道柏原宿のマップで周辺の見所の説明を受け、目的の清瀧寺徳源寺に向かった。

少し風はあったものの暑いなか20分ほど歩いてようやくお寺に着くと、小堀遠州の作といわれる庭園が広がる涼しげな大広間に案内してもらい、冷たいお茶を頂きながら、ご住職から興味ある京極氏のお話をうかがう事ができた。

この徳源院にまつられている京極氏は、もともと鎌倉・室町時代にかけて近江を領していた宇多源氏の流れをくむ佐々木氏で、後に六角氏、京極氏、高島氏、大原氏に分かれ分家筋である。京極氏は室町時代「婆娑羅大名」といわれた五

世高氏（道誉）の活躍により近江のほか出雲、上総、飛騨守護職となり、更に山名・一色・赤松の諸氏に並んで四職のひとつに数えられるようになった程の名門であり、信長に滅ぼされた本家筋の六角氏をしのぐ勢力を持っていた。

しかし、お初の夫である高次の父、高吉の時代は、下克上であり、家臣であった浅井氏に実権を握られ、高次も浅井氏の居城である小谷城で庇護をうけ、そしてその後信長の人質として美濃で幼少期を過ごしている。

お江のドラマで鈴木砂羽さん演ずる京極龍子松の丸殿は、本能寺の変で、明智方についた夫が秀吉に討たれ謀反人の妻となるが、その後寵愛をうけ秀吉の側室となる。妹龍子の嘆願により、同じく明智方についた兄の高次も許され、秀吉のもとで仕えることが出来、まもなく近江大溝城1万石の大名となり、京極家再興の大きなきっかけをつくることになる。

秀吉という人、ほんとうにブランドに弱いというか名門家には目がないという性分である。側室に、信長の血をひくお初の姉である淀君、謀反人の妻であった京極龍子、又高次には豊臣姓まで与えて大事にしている。高次が蛸大名といわれる所以である。

帰りには中山道を通り、今も残る亀屋左京もぐさ店など柏原宿の面影を見ながら徳源院を後にした。昼から見に行く「梅花藻」はきれいに咲いているかなと思いつつ、醒ヶ井まで電車で戻り、「本陣樋口山」で名物の鱒料理を味わうことにした。梅花藻は、白い梅に似た五弁の花をつけることから名がついているらしいが、先月の台風以来、日本武尊の命を救ったという伝説の湧水「居醒の清水」を源流とする地蔵川の水量があまり下がっていないためか、水面に少しだけ花卉を出したあの愛らしい感じは、残念ながら今回はほんの少しのスポットしか見る事ができなかった。

自然のものは、いつもながらタイミングが

難しいものである。さて、この企画案を検討中にどなたか提案され、皆さんに喜ばれた青春18切符、私も初めての利用であったが、チケット

店で10枚買い、残った4枚を売った。利用してみるといろいろよくわかってくるなど改めて感じた次第であった。

西 行 水

西行法師の飲み残した茶の泡を飲んだ茶屋の娘が懐妊。それを知った西行が、もし自分の子供なら泡に戻れというとその子はたちまち泡になったという。



左側より 木下さん・長谷川さん・大橋さん・山本さん・林さん・志方さん・松井さん・十河さん・森さん・篠岡さん



秋色飛鳥寺(デジタル画像を PhotoshopElements を使ってパステル画風に変換しています)

「けやきテニス同好会」発会 のお知らせ

11月17日、新しいクラブ「けやきテニス同好会」が発会いたしました。

当日、12時45分に1号館掲示板前に6名が集まり、13時～15時まで6号館の横にあるコートでテニスを楽しみました。

園田学園は、クレイコート・オムニコート・ハードコートの3種類のコートを備えておられますが、センター様の好意で、足に優しいオムニコートを使わせて頂きました。

今後、月2回程度のペースでテニスを楽しみたいと思っています。(陰の声 テニス界では、名門中の名門園田学園でテニスをしている…とは凄いですね。)

このクラブの目的は、テニスを通してシニア専修コースでの学園生活を楽しむことにあります。下の画像は、当日参加されたメンバーです。

幹事 国際文化学科2年 中村 米三郎
大野 紀美子



「けやきデジカメクラブ」第3回野外活動

11月26日(土)11時にJR神戸駅に集合。参加者は6名、目的地は、神戸港ハーバーランド～三宮間ウォーキング、天気は快晴です。

ポートタワーのそばの芝生の上で、まず昼食をしました。これから観光の始まりです。

観光船「オーシャンプリンス号」で45分間、神戸港を周遊しました。海上自衛隊潜水艦、「海の貴婦人」と呼ばれている練習帆船日本丸、ドック入りしている外国籍の貨物船、世界一周クルーズ客船オセアニック号(ピースボート)等多くの艦船を見てデジカメのシャッターを押しました。

それから、海上保安庁、足を延ばして停泊中の日本丸の近くまで行きましたが、停泊している突堤の広場に入れずそばまで行くのを断念。準備中のルミナリエを見物、そして三宮東遊園地の大震災メモリアルモニュメントまで行き、JR三宮駅でお茶をして解散しました。



総合生涯学習センターからのお知らせ、お願い

シニア専修コースのみなさま

園田学園女子大学

総合生涯学習センター

平成24年度のご案内

いつも本学の生涯学習プログラムをご利用いただきありがとうございます。

さて、来年度のシニア専修コースについてご案内いたします。来年度もみなさまの、受講される授業が、それぞれに役立ち、また楽しみとして生活の一部になれば幸いに存じます。

1 今後の予定について

- 3月16日(金) 卒業式(14時より)
- 4月13日(金) 入学式(14時より)・オリエンテーション・履修申込受付開始
- 4月16日(月) 授業開始(始めの2週間はお試し授業を行います)
- 4月27日(金) 履修申込書提出締め切り
- 5月7日(月) 振込み用紙の配布開始(事務室にて) 予定

2 時間割について

平成24年度の時間割を別紙にてご案内いたします。時間割はやむを得ず変更される場合があることをご了解ください。なお、変更があり次第、掲示板等で案内いたします。正式なものは、オリエンテーションにてお渡しいたします。

3 オリエンテーションについて

入学式終了後よりオリエンテーションを行います。履修登録・レントゲン検査・シラバスの配布・お試し授業・ご入金についてなど、大切なお知らせをいたします。必ずご出席ください。

4 履修登録について

オリエンテーション終了後から4月27日までにご提出ください。お試し授業を行いますので、一度、授業を受けられてからお決めいただいても結構です。

5 レントゲン検診結果提出について

平成24年1月から6月末までに受診された胸部のレントゲン検診結果を必ずご提出ください。本学でも胸部のレントゲン検診を行います。(実費700円程度) 日程とお申込みについてはオリエンテーションにてご案内いたします。

6 授業料の納入について

新年度より「コンビニ振込み」による納入に変更予定しています。詳しくはオリエンテーションにてご案内いたします。

7 研究生及び3年生の方へ

研究生登録の受付は、12月より開始いたします。来年度もぜひご登録いただきますようお願いいたします。登録料の納入は、今回までは「郵便振替」です。

8 新入生の募集について（お願い）

平成24年4月入学の新入生を募集しています。みなさまのご友人・ご家族・ご近所の方などにご紹介いただきますようお願い申し上げます。募集チラシは事務室にありますので、お気軽にお声掛けください。

その他、ご不明な事がありましたら総合生涯学習センターにお問合せください。

総合生涯学習センター

Tel: 06-6429-9908

Fax: 06-6421-7009

E-mail: syougai@sonoda-u.ac.jp



「けやき便り」の投稿について

1. 「けやき便り」は、原則として「MS明朝体」「12ポイント」のフォントを使います。
2. 原稿について
 - ① 原稿用紙で頂く場合
市販の400字づめ原稿用紙をお使いいただくか、またはメモ用紙に記入して頂いても結構です。また、当クラブも専用の400字づめ原稿用紙を用意していますので、必要な方は、お申し出下さい。
 - ② パソコンでプリントされた場合
プリントされた用紙をそのままご提出下さい。できれば、画像が含まれている文書を投稿される時は、ファイルのまま頂くと非常に有難いです。その場合、提出方法は、編集クラブ員にご相談下さい。
3. 次の内容を含む投稿はお断りします。
 - ① 宗教・政治に関するもの
 - ② 公序良俗に反するもの
 - ③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集グループが、掲載することを不可と判断したもの
4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。
 - ① 紙面のレイアウトを整えるため
 - ② 編集グループで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため
5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。また、原稿は返却いたしかねますので、ご了承ください。
6. 画像を掲載する時、カラー画像を頂いても、紙面には印刷に適した色に変換して掲載しますのでご了承ください。
7. 投稿は1号館1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱をお願いします。

